

## 未来をつむぐ「明日の京都」ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 中丹

日 時： 平成 21 年 7 月 19 日（日） 15:00～17:00

場 所： 舞鶴市政記念館

登壇者： 山田 啓二 京都府知事  
松山 正治 福知山市長  
齋藤 彰 舞鶴市長  
上原 直人 綾部市副市長  
新宮 七郎 医療法人財団新大江病院常務理事、  
「明日の京都」ビジョン懇話会委員  
佐藤 満 立命館大学政策科学部教授、「行政運営の基本理  
念・原則となる条例」検討委員会委員  
井口 和起 京都府立総合資料館館長、京都府中丹地域戦略会  
議座長  
水野 直己 パティシエ【ゲスト】 他

○司会 お待たせいたしました。

ただいまから、「未来をつむぐ「明日の京都」ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 中丹」を開催させていただきます。

では、初めにステージ上の皆様を紹介させていただきます。まず中央、山田啓二京都府知事でございます。そして、お席離れてしまいますけれども、松山正治福知山市長でございます。お隣、齋藤彰舞鶴市長でございます。お隣、上原直人綾部市副市長でございます。そして、こちらのほうに参りまして、「明日の京都」ビジョン懇話会委員の新宮七郎医療法人財団新大江病院常務理事でございます。お隣、「行政運営の基本理念・原則となる条例」検討委員会委員の佐藤満立命館大学政策科学部教授でございます。お隣、中丹地域戦略会議座長の井口和起京都府立総合資料館館長でございます。そして、本日、紅一点となりました平成 21 年度京都府女性の船参加者、舞鶴市在住の新宮留美さんです。そして、知事のお隣になります。本日のゲストスピーカー、福知山市在住のパティシエ、水野直己さんです。

では、皆様方どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は京都府議会議員の皆様にも会場にお越しいただいておりますので、ここで紹介をさせていただきます。まず、千歳利三郎様でございます。中島則明様でございます。大橋一夫様でございます。佐々木幹夫様でございます。岡本忠藏様でございます。また、福知山市、舞鶴市、綾部市の市議会議員の皆様方にも多数会場にお越しいただいております。よろしければ、恐れ入りますが、その場でご起立いただきましてよろしいでしょうか。ちょっとお立ちいただきにくいようですけれどもね。ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、府民交流会開会に当たりまして、山田啓二京都府知事からごあいさつ申し上げます。

○山田啓二知事 きょうは中丹の皆さんに、この府民交流会に大勢おいでいただきまして、まず心から感謝を申し上げたいというふうに思っております。

この府民交流会は、京都府のこれからの長期ビジョンをどういうふうにつくっていくか、府民の皆様の率直な意見をお聞きする中で、私たちは未来の京都づくりのためにこの会を開催いたしました。

今、どちらかと申しますと大変厳しい時代でありまして、雇用も厳しい、そして経済状況も100年に1回の不況ということで、余りいい状況ではありません。ましてや京都の中北部地域というのは、どちらかという高齢化が進むなど、大変地域的にも問題を抱えている地域であると思います。それだけに、私たちはやはり次の10年20年に向かって、どういう形で歩みを進めていこうかということを真剣に、今こそもう一度、自分たちの足元を踏み締めながら考えていかなければならないのではないかなというふうに思っております。

夢を語らなければ、やっぱり未来は来ないと思います。未来をやっぱり結果にするのではなくて、夢の現実になった姿として、私たちはとらえたいと思ってます。そのためには、まず自分たちの思いというものを私は条例にしたいというふうに思ってます。どういう思いで京都をつくっていくのか、京都府という行政をしていくのか、そういう思いを皆さんとともに条例という形で共通化していけたら、そして、願いを長期ビジョンという形で皆さんとともに描く。これによって夢を夢ではなく、現実に変えていきたいというふうに思っています。その意味から申しまして、きょうはぜひとも皆さんのそうした思いや願いをたくさん伝えていただきたいというふうに思います。

きょう、ここにたくさんの、前にも人間がおりますけれども、一人一人の思い、願いも語りながら、皆さんとともにあすの京都の未来を紡いでまいりましょう。どうかよろしくお願い申し上げます。

○司会 ではここで、「明日の京都」ビジョンの概要につきまして、高嶋学京都府政策企画部長から説明いたします。

○高嶋 学 皆様こんにちは、高嶋でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

お手元に、右の上に1番と書いてございますが、京都府の明日の京都ビジョンはこうして検討していますという、こういう資料がお手元にありますでしょうか。これに沿いまして、少し御説明をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

京都府では、これまで10年間の府の総合計画でございます新京都府総合計画、新府総と申しておりますが、それと、そのうちの後半5年間の重点目標等をあらわしました中期ビジョ

ン、この二つの計画に加えて、各広域振興局ごとにつくりました地域振興計画、これを基本として市政の運営を進めてまいりました。この三つの計画はおおむね来年、平成 22 年をもって計画期間が満了いたします。そこで、資料にありますように、それらの後継となります計画づくりに昨年の8月から着手をいたしました。新しい計画の体系は、これまでの総合計画とは発想を転換いたしまして、資料にありますように基本条例、ビジョンや計画をつくり、この四つの柱で、長期の視点と短期の視点をあわせ持った府政運営を進めていこうということで考えております。四つの柱について御説明を申し上げます。

まず、真ん中ですが、長期ビジョン、これは 10 年ないし 20 年後の京都府社会のありたい姿、将来の京都府はこんなふうになっていたいという社会像を描いていこうとするものでございます。

そして、その下にあります中期計画と地域振興計画ですが、この二つは京都府社会、あるいはそれぞれの地域のありたい姿に向かうために、おおむね四、五年間に行うべき具体的な施策や事業をまとめた計画としてつくってまいります。このように、将来のゴールをしっかりと展望しながら、経済や社会の変化が非常に激しい時代の中でもありますので、施策や事業は世の中の状況の変化に柔軟に対応しながら機動的に展開していくことによりまして、府民の皆様の暮らしをしっかりと守り、長期ビジョンの目指すゴールに向かって一步一步着実に進んでいくことができるのではないかと考えております。

最後になりましたが、四つ目の柱が基本条例でございます。今、知事が申し上げましたが、長期ビジョン、中期計画、地域振興計画の三つは、いわば将来こうありたいという社会像に向かって、京都府をこういうふうに変えていきましょう、こういう京都府をつくっていきましょうというものでございますが、それに対しまして、この基本条例の方は世の中がどう変わろうか決して変わることのない京都府政の基本的なあり方や原則といったものを、これは条例としてきちっと定めておきましょうというものでございます。これらの四つの基本条例、長期ビジョン、中期計画、地域振興計画、これをつくってまいりますために、基本条例につきましては行政運営の基本理念、原則となる条例検討委員会、長期ビジョンと中期計画につきましては明日の京都ビジョン懇話会、地域振興計画につきましては各広域振興局ごとの地域戦略会議という形で、それぞれ有識者の皆様による会議を設置し、検討に着手したところでございます。これらは京都府政の将来にわたる基本的な柱となる条例や計画となるものでありますので、最終的には府議会に御報告をし、御意見、御議決をいただいて、成案とするものでございます。

以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会 では、続きまして、ステージの皆様方に一言ずつお伝えいただきたいと思います。

まず、「明日の京都」ビジョン懇話会委員でございます新宮七郎さんから、「明日の京都」ビジョンについての思いを一言お願いいたします。

○新宮七郎 皆さん、こんにちは。ただいま紹介をいただきました新大江病院の新宮と申します。どうかひとつよろしくお願いいたします。

この懇談会に委員として出させていただいておるわけですが、きょうは一言でその思いを述べよということですので、大変難しい話でございます。この懇談会には、京都府の北部から2名しか入っておりません。丹後の三洋商事社長の今井一雄さんと中丹の私ということになっております。

御存じのとおり、南北に長い京都府の将来を議論する上で、中北部から2人というのは寂しいなという感じがいたしております。既に各委員は自分の主張をまとめまして提出をしておりますが、私も9項目に分類して、自分の課題に対する考え方を述べております。時間の制約がございますので、その一部をкаいつまんでお話しさせていただくということでお許しをいただきたいと思います。早口になりますが、どうかひとつ御容赦ください。

総論でございますが、京都府社会の優位性を生かす、世界の古都、京都、古い都、京都ですね。それから、ふるさと原風景、荒波の日本海まで、この世界に通用する京都ブランドを最大限活用すべきだという主張でございます。京都だからできる、京都ならではの政策、京都の力、京都からの発信、これが重要であろうというふうに考えておるところでございます。各論でございますが、会場が中北部ですので、京都北部地域の課題や役割を明確にすることが大事ではないかというふうに言っております。

少子高齢化の問題に絡みまして、今、知恵を出さなければならないのが、元気な高齢者の生きがいつくりであり、活用の舞台づくりだというふうに思っております。府域のトータルな運営、地域での子育て、教育環境整備やものづくり後継者の育成など、おじいさん、おばあさん、いわゆる高齢者の出番は数え切れないぐらいたくさんあるというふうに思っております。その役者がそろった舞台をつくるべきだというふうに思います。

核家族化の進展に連動いたしまして、不登校や子育て不安、それから教育現場の荒廃、社会規範のわからない児童・生徒の増大など、いろんな弊害が出てきております。そういう中で、地域や集落での子育てが重要であるというふうに思います。低コストと言えばおかしいですが、高齢者を活用した活躍の舞台をつくることが、今後の高齢化においては重要であるとい

うような形で、教育現場の皆さん、あるいは親たちの子育て不安を十分低減できるんじゃないかというふうに言っております。

それから、情報の地域格差の問題でございます。北部地域は特に多いわけですが、地域格差が非常に大きいというふうに思っております。中山間地域には携帯の通話不能地域、地デジ放送が見られない地域、あるいは通信回線が低速な地域、これらがいたたくさんあります。その一方で、都市部では高度な高付加価値通信が吹聴されており、総務省も地デジのテレビ宣伝を行っておりますけれども、難視聴の地域においては高い受益者負担等、あるいは設備投資がなければ、その恩恵を享受できないという悲しい現実があるわけでございます。これらをみんなで共益すべきだという主張を行っております。

それから最後に、京都府北部に大きな災害をもたらした台風 23 号から、ことしで 5 年がたとうというふうになっております。やはり安全な生活基盤、それからアクセスの道路等、その確保が、地域においては極めて重要であるというふうな思いでおります。このように中丹地域、丹後地域にはたくさんの課題があるわけでございますが、山田知事さんからは、今回、白紙の上に京都ならできる、京都だからできる、京都が日本をリードするんだという京都ビジョンをつくりたいというふうに言われております。そういう中で、私は大変力不足でございますけれども、何とか頑張っていきたいという気持ちで、今、この委員を務めさせていただいております。

以上で発言を終わります。

○司会 ありがとうございます。

たくさんの思いを一気に言っていただいたという感じなんですけれども、ありがとうございました。

続きまして、「行政運営の基本理念・原則となる条例」検討委員会委員でございます佐藤満さんから、条例についての思いを一言お願いいたします。

○佐藤 満 大学の先生は立ってしゃべるのになれておりますので立たさせていただきます。

条例というのも、特に府の運営に関する基本条例というのが果たしているのかというのを思われたことないでしょうか。実は、私、この委員会に最初に呼ばれたときに、そんなもんは要らんの違うかなとちょっと思ってたんですね。と申しますのは、憲法でも地方自治は定められておりますし、地方自治法という立派な法律もありますから、これは要らんのと違うかなと山田知事に申し上げていると、そんなことはないと言山田知事はおっしゃるんですね。どうということかということ、憲法に書いてある事柄とか、地方自治法で細かく定められている事

柄とかいうのをよく知ってるのは、やっぱり専門家になっちゃうわけですよ。それを、ある意味では、これから分権が進んで、京都府としてやれることがふえてくる。だけど、その京都府としてやられることが、皆様が選ばれた山田知事や、皆様が選ばれた府会議員の方々に任せたんでは、お任せ民主主義になっちゃうだろう。お任せ民主主義じゃなくて、みんなが自分の思いを伝えながら京都府をつくっていくということを考えないといけないんじゃないか、そのための条例だということなんですね。ということは、確かに憲法や地方自治法に矛盾するものはつくれませんし、憲法や地方自治法を丁寧に皆さんに使っていただいて、府民から発信するまちづくり、府民から発信する京都づくりを考えていただくような、その助けとなる基本的なルールをお示しすることが大事だというふうに考えています。

例えば、ですます調でつくってみようとかいう形で、京大の高木先生が座長やっておられて、この方は行政法の専門家なので、ですます調で条例をつくってみましたと、こないだ言われたんですけど、やっぱりちょっと我々にはなじみにくいんですね。

あるいは、今、いろいろ難しい言葉が言われますね。特に、我々はユニバーサルデザインが大事だと言ったりします、いろんな方が、障害を持った方々も自由に参画できるような、そういう仕組みのことですね。ところが、そんな話を田舎の、田舎のと言ったら失礼ですけど、郡部にお住まいのおばあちゃんたちを想定して考えたときに、これはみんなが共有できる条例としてはいいのかというような議論をしている最中なんです。ですから、このような機会を持って、単に条例をつくれればいいということではなくて、条例をつくる過程で皆さんとお話をして、皆様が府民発信の京都府づくりにどのような形で生かせるようなルールが欲しいのかという話をお聞きしたいと思って、このような企画に参加させていただきました。ですから、僕が話す時間を多くとってもいいけませんので、できるだけ皆さんの御意見をお伺いする時間をたくさんとりたいと考えています。ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

次に、中丹広域振興局では、現在、次期地域振興計画を検討しておりますが、その中丹地域戦略会議の座長、井口和起さんから、次期中丹地域振興計画についての思いを一言お願いいたします。

○井口和起 済みません、今、御紹介いただいた井口です。

お手元の資料にNo.3というのに新聞記事の切り抜きが出ておりまして、第1回目中丹地方振興局で戦略会議を、いつ、どんなことが開かれたかというのが書いてあります。それからNo.4の後ろのほうに、実は委員の名前が20人ほど書いてあるんですが、ここに書かれている

ように、これから私たち中丹振興局全体で、広域振興局のもとで、将来の中丹の皆さんと一緒にありたい姿というものを、知事の言葉で言えばビジョンではありますが、共有できるようなビジョンを考えるというのが一つですが、それと同時に、それに近づくために、これから四、五年の間にどんなことができるんだろうかということを、きょう、ここにもその委員の方々も来てくださってますけれども、後ほど多分、意見をおっしゃってくださるんじゃないかと思いますが、それに府の職員の皆さんや、それから後で御意見がいただけると思いますけれども、3市の職員の皆さんと一緒に今、検討しているところです。

私自身は、実は福知山市内の出身であります。中丹というのはそんなに力のないところじゃないというふうに私たちは思っているんです。由良川を初めとする豊かな自然にも恵まれていますし、物づくりや、あるいは産業・商業の世界でも、これは江戸時代からそれほどおくれた地域では決してなかったんで、とはいえ、一時、開発がおくれてるというようなことも言われましたけれども、ここ5年間、今後見通しと言いますと、御承知のとおり 22 年、来年の春には舞鶴国際埠頭の供用が開始されますし、さらに数年後、平成 26 年度には、恐らく京都縦貫道が全開通するだろうと、こういうわけで、一段と中丹の地域は様子も変わり便利になるだろうということがまず見通せるんですが、同時に、それはいい面ばかりが出てくるかどうかと言うと、不安だという声も委員の中でもあるわけです。それは新聞記事の中にも出てきます。便利になればなるほど、通り過ぎていくだけになるんじゃないの、それは困るんだなというような意見もあります。でも、私たちはそんな中で、先ほども申しましたが、決して私たち自身が今の中丹に自信を持たないんじゃないくて、ありのままの私たちの中丹地域の持っている特質やすばらしさというものを再確認しながら、そして次の夢のある世界に向かって、どんなふうに計画を立てていくかということを今考えようとしていますので、その中から一つでも二つでも実現できるものを計画の中に盛り込んでいきたいと思っています。

私たち二十数名は、決してお手盛りの府の知事さん、こんなこと言うとしかれるかもしれませんが、から任命されて、その出される原案を何だかんだと言って結局はのんでしまうような委員会であるかという、そんなことは全然ないので、委員の皆さんには、私は大変過酷なことをいつも要求してます。一言も言わずに帰る委員は出席できないんです、私たちのこの委員会は。きょうも来てくださってるんで、また参加された皆さん、これは時間がないので無理かもしれませんが、一言も言わないで帰るというようなことじゃなくて、本当に言いたいことを言っていただいて、私たちもそれを受けとめながら一緒に考えたい、こんな

意気込みを持っています。よろしくお願いします。

○司会 ありがとうございました。

さて、本日は中丹管内の3市の市長・副市長にも御出席いただいております。

まず、松山正治福知山市長に、地域の将来にかける思いを一言お願いいたします。

○松山正治福知山市長 ただいま御紹介に預かりました松山でございます。

一言が二言、三言と多くなるおそれがありますけども、時間をしっかりとって、宣伝も兼ねておしゃべりをさせてもらいたいと思います。

もう御存じのように、福知山は平成18年に1市3町が合併いたしまして、そして、いろんな意味で福知山市民の生活に変化が来たと、あるいは生じたと言った方が間違いないと思います。不便さでありますとか、あるいはまた受益負担の関係で、物理的に、あるいはまた心理的なものも含めまして、ちょうど光と陰のような形で合併して損したとか、合併してよかったとか、いろんな御意見を賜りながら、私が10代目の市長ということで当選させてもらったわけでございますけども、既に第4次の福知山の総合計画というものがありまして、そのことについては継承していきたいということで、厚かましくも、北近畿をリードするような創造性あふれる町にしたいというのが私どもの願いでございまして、京都府の御援助をいただきながら、実はいろんな形で行事が進行しているわけでございます。既に2月には、皆さん御存じのように、JRの福知山駅に続きましてKTRの高架化が完成いたしましたし、残る区画整理事業の完了も平成23年度に控えまして、そういった中心市街地でありますとか、そういった核づくりのために、今、一生懸命頑張っておるわけでございます。

地域の情報格差をできるだけ解消したいということで、情報基地の整備でありますとか、農山村の定住化の問題でありますとか、あるいはまた子育ての支援、すべての自治会に、私もことは市役所の職員が多い多いと言われておりますから、御用聞きを325自治会長のところに、2人をペアにして自治会長さんのところへ御用聞き方法をとらせてもらいまして、人、自治会長さんのパイプを太く太くしていきたいという意味で、そういった形で担当制の導入を仕組んだわけでございます。市民協働のあり方の検討も通じまして、市民の満足度のいくような、少しでも満足がいただけるような行政にしていきたいと。

大きな課題としてはたくさんあるわけですが、ようけしゃべりますから適当に時間とめてくださいね、切りありませんので。課題がたくさんあるわけですが、特に、ここは私とこだけやなしに少子高齢化でありますとか、あるいはまた人口減少というのは、もうとことん北部のほうは身をもって感じているわけですし、特に私はきょう知事さんもおられるから苦情を

言うわけではないんですけど、何で縦貫道が福知山を通らずにあちらへ行ってしまうかと、大変私は不足でして、9号線が暗い暗い、今言いましたように光と陰と言いました、陰の部分になると。私ははげておりますけども、陰の部分になってるというね、大変つらい思いをしながら、何とか4車線にしてほしいという要望もしながら今後進めてまいりたいし、それから、この同じ北近畿ですので、舞鶴の国際埠頭も何とかびちっとしてもらって、綾部も福知山も、この埠頭を利用しながら海外に国際的なものになっていけば、工業の、私どもは三和にも、そしてまた長田にもありますので、そういった面で利用させていただいたら大変ありがたいなと思います。

ただ、将来のビジョン、四つ簡単に。

一つは、衣・食・住・遊・学、こういったものを何としてもつくり上げたい。二つ目には、今、立命館の教授の方がおっしゃいましたけれども、鉄道を初め、広域交通網とともにユニバーサルデザインの関係の導入もしたい。それから三つ目には、市民と地域、NPO、あるいはまた企業、行政などの責任者と分担しながら、そういう担当を決めて、都市化に対して闘っていきたい。最後は、郷土を愛する子供たちを育てていききたいと、こういうように思っています。

たくさんしゃべりまして申しわけない。もっと本当は言いたいんですけど、次にバトンタッチします。

○司会 申しわけございません。もうたくさんたくさんお聞きしたいんですけどもね、ありがとうございました。

続きまして、齋藤彰舞鶴市長に、地域の将来にかける思いを一言お願いいたします。

○齋藤 彰舞鶴市長 一言でございます。

知事さんから、やっぱり長期ビジョンということでございますから、やっぱりそこにかける舞鶴という思いを少し話させていただきたいと思っておりますけれども、やはり一つは、舞鶴がどうしてもらおうということじゃなくして、舞鶴が京都府、京都のためにどうあれねばならないかということですね、そういう形でやっぱり考えさせていただきたいというふうに思っております。

その中でも、やはり私たちがやっぱり考えていかなきゃいけないのは、やっぱり舞鶴を本当に誇りと思ってくれる次期世代を担う子供をしっかりとつくっていききたい。この子供たちをつくっていかなかったら大変だと。御多分に漏れず高齢化と、それから少子化を迎えるわけでございますが、しっかりと子供たちを大切にするような、やっぱり舞鶴をつくっていききたいと

思っております。

そういう中で、二つほど述べたいんですけど、やはりプロジェクトという一つの形じゃないんですけども、舞鶴はやはり、先ほどから皆さんから応援もいただいておりますように、舞鶴埠頭というふうな国際埠頭ができました。知事さんに命名もこれ、その中でもこの年にさせていただいたわけですが、5万トンカ이가接岸できて、その面積たるも13.7ヘクタールという大きな国際埠頭ができるわけですね。もともと太平洋側が実は中心じゃなくて日本海側が中心だった一つのことが、このごろやっと戻ってまいりまして、船もたくさんもう日本海側を通るようになった。いよいよ北近畿の生まれ変わった玄関口として、舞鶴港をしっかりと北東アジアとの連携をとっていきたい。そして、人や物や情報の交流をしっかりと持つような舞鶴になっていく。もちろん先ほど言われたように、福知山市さんの経済も支えるやっぱり舞鶴になりたいですね。当然、綾部市さんの経済も支える。そして、北部のやっぱり北近畿の経済と言うよりも、本当に近畿経済を、舞鶴は玄関口で国際交流を持つ中、海外とのやっぱり表玄関ですから、それをしっかりとやっていく。逆に、本当は京都市が支えるのは舞鶴港があるからだぞと言えるような展望のある形でやっぱりつくっていききたい、こんなことを実は思っております。

そういう面では既存航路をしっかりと守り、新たな航路をつくり、都をつくり、しっかりと、今度は高速道路ができれば1時間で京都と舞鶴ですから、いわば舞鶴のお荷物はすぐ京都に残る。実は京都市というのは政令指定都市ですが、実は港を持たない政令指定都市なんですね。だから、舞鶴港がそれにかわった京都舞鶴港としてその責任を持つ、そういう形でしっかりとこの舞鶴港をつくることによって、この周辺の経済もやっぱり持ち出す、近畿の経済も持ち出す、こういう出発を来年の春からしていきたいと、こんなことをひとつ思っております。

あとは、今、皆さん方にいろんな中で協力もいただいておりますが、実は医療の問題であります。

舞鶴は皆さん御承知のように、かつて、今もそうですが、4病院を持っております、本当に医療に恵まれた町でございました。今、都市化で周辺部の皆さんも病院ができてちゃんと安定してきましたが、かつては京都府北部の医療は全部舞鶴にあった。それどころか、福井県の嶺南の医療も全部舞鶴にあった。それが舞鶴の医療があるから、北部、この周辺部には全部できたんだというふうなことでした。

ところが、皆さん御承知のように、今、医師不足というのは舞鶴の中でも大きく影響してお

ります。かつて 130 人ぐらいいたお医者さんが、もう 106 人になっちゃったんですよ。本当にもうベッド数はあるんだけど、ほんとに医師の疲弊という大きな問題になった。特に舞鶴は、4 病院があるがゆえ疲弊が大きゅうございました、反応が。もちろん、その中では、今は休診となっておる診療所もあれば、少なくとも医師の確保ができないため、本当にトラブルが生じてることもあります。そんなことの現状を何とかクリアしていかなきゃいけない。持続可能な、やっぱり舞鶴が医療で生きてきたこの力を、今マイナスですけども、やっぱりプラスに変える中で、まちづくりの責任をしっかりと担っていく、こういう舞鶴をどうしてもつくっていききたい。

おかげで今度、国の方も、経済危機対策の中で 3,100 億円の地域医療再生基金みたいなものがあるわけですから、これは何とか舞鶴市がすぐ言えなくて、京都を通じて言っていかなきゃならないんで、山田知事さんにぜひ、この 3,100 億円の大きなこの基金を舞鶴に持ってくるお力を貸してほしいと、そんなことを思っております。

そういう面では負の論理ですけど、今マイナスイメージですけど、これをプラスに変えていくと、そしてコアもやっていく。そういう中で、この京都府北部、そして嶺南も含めて、舞鶴にはこれをしっかりやっていく。そういう形と京都と連携していく新たなビジョンをつくっていききたい、そのように思っております。よろしくお願いします。

○司会 ありがとうございます。

続きまして、四方八洲男綾部市長ですが、本日出席かなわず、代理として上原直人副市長に御出席いただいております。

上原副市長、地域の将来にかける思いを一言お願いいたします。

○上原直人綾部市副市長 まずもって、本日の府民交流会、四方市長は出席できませんでした。大変申しわけなく思っております。

実は、日本の世界連邦運動のトップ会長でありました故植木光教さんの世界連邦関係団体としてのしのぶ会が東京でありまして、市長もその主催者の 1 人でありますので、本日、東京のほうへ行っております。かわりまして出席をさせていただきましたが、私のほうから綾部市の将来のビジョンといいますか、現在の課題等を含めて報告をさせていただきたいと思っております。

綾部市のほうも現在、総合計画が平成 22 年度、来年の 22 年度の 3 月といいますか、22 年度までで終わります。現在、次期の計画づくりに向けまして取り組みを進めております。その中でずっと流れておりますのが、綾部市としての優位性といいますか、綾部市の特色を

まず押さえようということが第一にあります。

一つは、やはりJR・高速道路を含めた交通網の結節点という地の利、二つ目には豊かな自然農村環境を有していること、三つ目には古くからグンゼ等に代表されます物づくりの基盤がしっかりしていること、それから四つ目には大もとなる世界連邦等の市民の中に平和への思いが根づいていること、五つ目に多彩な文化、それから活発な市民活動、こういった点が挙げられると思います。こういったものをベースに置きながら、特色ある、個性あるまちづくりを進めていきたいというのが綾部市の思いでございます。

そんな中で、先ほど五つ言いました中で、例えば交通網と物づくりの観点で言いますと、京都府さんにお世話になりました府営工業団地、市営工業団地、さらには綾部市内の工業適地への企業立地等々、平成10年から見ていますと21の企業が立地いただきました。これによりまして働く場が確保できた、あわせてそれに関連します定住政策も市営の住宅団地等で今頑張っているところであります。今後のこういった面におきます課題といたしましては、やはり昼間人口が平成17年で1,000人ほどプラスになってきております。いわゆる流入人口が増加してるということです。これをいかに定住人口に結びつけるか。あわせて今回の経済不況で、大変、今心配いたしておりますのが、有効求人倍率が5月で0.28まで落ちました。やはり製造業を中心に働く場ということの中で、一番大きく影響を受けました。したがって、今後のことを考えますと、やはり働く場の多様性が求められるなというふうに考えております。それはソフト分野等、いわゆる立地企業との関連の中での試験・研究・研修機関でありましたり、または福祉とか農業の違う分野での働き口、こういった多様性のある働き口を確保していく、そんな施策が必要だと思っております。

それから、綾部市のもう一つの特色であります豊かな自然、農村環境。21世紀は農業・農村の時代というのが、うちの市長の口癖であります。しかしながら、農業問題、今、集落営農とか担い手の確保、農業法人等々、綾部市も京都府さんと一緒になりまして農夢という第三セクターを立ち上げましたが、府立の農業大学校と連携する中で、新規就農者の育成なり京野菜の振興を図っております。

もう一つ問題になりますのが、農村の過疎高齢化です。綾部市が音頭をとりまして、水源の里の取り組みを全国に広げております。こういった中で、定住促進でありますとか、都市・農村の交流、それから特産品の開発、あわせて農村地域で課題になっております情報基盤の整備。これも今回の国の補正を受ける中で、ブロードバンド全地域、全市域へ行けるようにということで、補正予算等で手を打ってきたいというふうに考えております。

活動については、やはり地域住民が主体です。行政はサポート役に徹するというふうなこと、そういった課題の中で、平成 20 年度では都市農村交流の成果として、26 世帯、80 人の方々が新たに農村部に転入をいただきました。しかしながら、課題はございまして、やはりそういった入ってこられた方の働き口、住まいの問題、それから農業問題で言いますと、やはり一番、今、課題になっておりますのが有害鳥獣対策です。こういった課題をいかに解決していくのか、これが綾部市の今後の計画づくりの中の一つのキーポイントになってこう思っております。

最後に、やはり常々市長が言っておりますのが、いわゆる市民力によるまちづくり、各分野におきますリーダーが必要だということです。地域づくりは人づくり、こういう観点の中で、現在それぞれの地域、それぞれの分野で活躍いただいております方々がリーダーとして地域を引っ張っていただくこと。あわせて、UJIターン等で入ってこられました新しい人材の方々が新しいリーダーとなって、一緒になって地域を盛り上げていくこと、こういったことが重要な一つの基盤になってくると思っております。市民を中心に、議会、行政、三位がコラボレーションを組んで、一緒になって綾部市のまちづくりを進めていきたい、そんな思いでございます。

以上です。

○司会 ありがとうございます。

さて、本日はことし6月19日から22日までに行われました平成21年度京都府女性の船に参加なさいました、舞鶴市在住の新宮留美さんにも御出席いただいております。

もう周りが男性の方ばかりで、先ほどから、もうさまざまな難しい話がたくさん飛んでおりますので、きっとときどきしておられるんじゃないかなと思っているんですけども、今回、知事との和い和いミーティング、船の中と今回とで2回目ということなんですけれども、船でちょっと遠くまで、日にちを、おうちをあげられて、さまざまな体験をされたと思うんですけども、御感想は何かございましたか。

○新宮留美 京都府の女性の船というのが私自身初めて知りましたというか、常に子供を中心に市政だよりと府政だよりを見ておりましたので、たまたま見たところ、何か週末に参加ができるということで、金曜日から月曜日の夕方まで3泊4日ということで、何とか自分の時間を有効に使ってみたいなということで、もう半分行く気で家族のほうには伝えまして、ちょっとびっくりされましたけれども、多分一番大変だったのは洗濯と御飯とごみ捨てと、どうしたらいいのかなという不安が一番多かったと思うんです。今まではもう常に私のほうがし

ておりましたので、最低限、御飯、米洗いと御飯炊けるぐらいは子供にはさせておりましたので、御飯が食べれたら何とかかなかなという、ちょっと軽々しく家のほうには任せて参加させていただきまして、この参加させていただいたことで、逆に家族のほうが終わもありましたし、帰って次の日のふだんどおりの生活には戻ったんですけれども、お皿を洗う姿を見たときに、お母ちゃん、これ大変やったなあとか、今までならばお皿を次から次出していたものが、これはちょっと洗うん大変やから減らそうかということで、お皿の数も出すのを減らしてくれるようになりますように、ちょっとずつですけれども、仕事と家事との両立を理解してくれてるかなと思います。

女性の船、参加させていただいて、全く知らない人と約 100 名の方との顔合わせで、いきなり2人とか3人とか4人とか、その場その場で寝泊まりをしたんですけれども、初めての方で何をしゃべっていいのかがすごい不安でしたけれども、思う気持ちというか、私が携わったのが食生活だったので、食生活の話をすると、すごい皆さんも同じ思いがあったもので、思ったよりも有意義に楽しく過ごすことができました。

○司会 なるほど、おうちの方が大変だったようで、もう周りの男性陣が、うん、なるほどという顔をされてましたけれどもね。

今、お子さんお二人なんですよ。

○新宮留美 はい。

○司会 何年生。

○新宮留美 中学1年の息子と小学5年の娘と2人です。

○司会 じゃあ、お母さん帰ってきて、でもやっぱりちょっと少しずつ手伝いをというあたりですよ。

○新宮留美 そうですね、はい。

○司会 御主人は。

○新宮留美 も、少しずつ思いが変わってきました。

○司会 隣で知事が、うんという顔になりましたけれどもね。世の男性陣の皆様方も、家事一切を任すのではなく、少しずつお手伝いをお願いしたいなと思いますけれども、その子供さんたち中心の生活で、PTAの役員としていろいろな活動をされたそうなんですけれども、少しお話しいただけますか。

○新宮留美 昨年度なんですけれども、中筋小学校のほうで本部役員の一員としてお世話になりまして、そのときに京都府のほうの方々からの話をいただいたときに、親のための応援塾をし

てはどうかという声をいただきまして、親のための応援塾って何なのかなということから聞きますと、核家族化しておりまして、なかなか子育てに対する悩みとか不安とかをお話する機会がないということで、ぜひそういう場を気軽に小学校の間だけでもぜひ来ていただけたらということで、就学前の親御さんと昨年度の6年生の親御さんとで給食試食会をしながら、食に関する話や給食当番の体験をさせていただいたり、入学説明会のほうには先輩のお母さんからということで、先生方の立場からではなく、同じ立場として、どういうものを準備したらいいとか、どういうものが要らないとか、そういう身近なことを、ある道具を持ってきていただいて説明したりとか、本当に単純なわからないことを何とか解決していただいて、入学するときには不安なく入っていただけたんじゃないかなと思います。

○司会　ありがとうございます。

　　まだまだお話たくさんお伺いしたいんですけども、ちょっと時間も来てしまったようです。

　　特に舞鶴、こちらにも座っておられますけれども、元気な女性の方がたくさんいらっしゃいますので、もう負けないように、今後とも活動をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

　　さて、続きまして、今日はゲストスピーカーとして、中丹地域から生まれた世界一のチョコレート職人、ワールドチョコレートマスターズ 2007 フランス・パリ大会の優勝者、水野直己さんに御出席いただいております。お待たせいたしました。

　　もうね、白一色なので、すごくこの中で目立つと思うんです。また、入り口のところに、きょう、特設の販売所を設けさせていただきまして、奥様がそこに立って、かわいい方なんですけども立っておられますので、よろしかったらまた後ほどゆっくりとごらんいただければと思います。

　　さて、もう世界を本当にまたにかけて頑張られるということになって、お忙しいんじゃないかと思うんですけども、もう福知山ですと育ってこられて、18 歳までおられたんですよ。それからずっと修行の旅をされて、東京の専門学校での講師もされながらということで、このチョコレートマスターズの優勝をつかみとって、また改めてこちら福知山に帰ってこられて、いかがですかね、世界を見て帰ってきた福知山、あるいは中丹というのは。

○水野直己　そうですね。東京で仕事することが多かったんですけども、東京にいるときも年に1度帰ればいいほうで、まとまった休みがとれたときに帰ってくるんですけど、そのたびにやっぱりお菓子の材料だけじゃなくて、ふだん食べてるお米とかお野菜とか、そういうものが、おふくろの味じゃないですけど、懐かしく思うほどおいしいなというのは常に感じ

てました。

○司会 なるほど。またちょっと、そこで英気を養って外へ出ていくという感じですね。

○水野直己 そうですね。

○司会 この5月に福知山に12年ぶりに戻っていらしゃったということで、もう地元、御実家の洋菓子店を拠点として、今後活動を繰り広げていかれるということなんですけれども、そう思われたきっかけとか、これからこうしていきたいなというふうな思いはございますか。

○水野直己 そうですね。地元に戻ってきた一つきっかけをくれたのは、もともとフランスで修行してたところに出会ったお菓子屋さんが幾つかあるんですけど、いいなって思うお店ほど地方にあるんです。フランスだとパリが首都になって、やっぱり一番都会なんですけど、地方の片田舎、本当に小さな村でもおいしいお菓子屋さんがあったり、すごくレベルの高いもの出してる場所があって、そういう形にすごく僕はあこがれて、僕が地元に戻って自分のやりたいお菓子を喜んで……に食べていただいて、いいお店が実現できて、それがまたほかの人にも伝染して、東京でお菓子をやりたいという人ばかりでなくて、自分の生まれ育った場所に帰ってもらってお店をやっていただくという形がとれば、日本的にも将来的に、もっともってフランスに負けないようなお菓子の世界ができるんじゃないかなと、僕は思います。

○司会 なるほど。そこには、やはり中丹のいろいろなものを取り入れていって、またお客様に還元するというふうなことになると思いますでしょうか。

○水野直己 僕、勉強不足で、帰ってくるまでいろいろ、こっちの食材のことをあんまり深く勉強したことなかったんですけど、とても魅力的な食材がたくさんあります。今回も紫ずきん、京都の枝豆ですね。ブランドの枝豆ですけど、その枝豆を使ってスペインのポルボローネというお菓子があるんですけど、それを合体させて、ちょっといい……、すごく評判がよくて、お菓子なのにビールに合うという部分もありまして、少しお塩を効かせてるのがそうさせてるのかもしれないですけど、そういうふうに僕が実際帰ってきてからつくるお菓子の考え方は、今までと少し変わって、こういうお菓子がつくりたいじゃなくて、素材から見直す部分、時間を割くことがすごくふえたと思うんです。そこにある食材のいいところをどんどん伸ばしてやるための、僕は手助けができてれば、それでお菓子屋さんとしていい形で……思うんですよ。というふうに今は感じております。

○司会 ありがとうございます。

では、地元のさまざまな方とたくさん交流をしていただきまして、そしてさまざまな取り組み、今後期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、ここまで京都府の未来や地域への思いについて、ステージの皆様方にお話をお伺いいたしましたけれども、ここで山田知事から皆様の熱い思いをお聞きになりまして、何かこんなことはどうだろうとか思われたことございませんでしょうか。

○山田啓二知事 本日より、多分メインになるのは、この後、会場の皆様から本当に多くの中丹地域に対する思いや意見をお聞きすることなんで、この段階であんまりまとめてしまっただけいけないと思うんですけれども、やっぱり一つは少子高齢化時代において、本当にこれから先の福祉のビジョン、医療のビジョンというものをどうやってつくり上げていくんだろかなということ、多分大勢の皆さんが一生懸命述べられていたんじゃないかなというふうに思います。そして同時に、そうした福祉とか医療とかいったビジョンとともに、やはり地域の将来を考えた場合には、地域産業とか地域の活性化というものに対するビジョンというものを非常に、特に各首長さんの皆さんですね、強く思ってもらったんじゃないかなというふうに思っておりまして、この二つをどうやって中丹という地域の特性を生かして、未来にすばらしいものをつくり上げていけるかなということ、多分、これからは、この後、皆さんからも御意見をちょうだいしたいなというふうに思います。

そして、その中で、やはりこの新宮さんと水野さんのお話を聞いていると、単にビジョンというものが一つの絵そらごとではなくて、まさに日々の営みの中で次をどう変えていくかというステップを、もう既に実践されている2人がいるというのを大変頼もしく思っています。新宮さんも女性の船という、これから多分、京都の未来というのか、日本の未来を切り開いていく上で、二つの大きなやっぱり一番頑張っていたかなきゃならないのは、女性と高齢者ではないかなという気がしております。これはやはり今までの時代自身が、男性中心の非常に厳しいハードワークの時代だったわけですが、これが安定成長の時代に移って、これから地域主体のものをつくってきたものを生かすという時代になったときには、生活に密着をしてきた女性の力というものが全面に出ていかなきゃなりませんし、高齢化時代において、昔は高齢者という言葉で一括りにしてたんですけれども、どちらかというと高齢者の皆さんが高齢者ではなくなった時代、セカンドライフを、まさに人生のメインに据えて、また生きていけるような時代になった。そのときに、地域においてどういうこれから活動をしていくかというのが、地域の未来を左右する時代になったというふうに思っておりますので、その点において、特に女性の立場から京都府の女性の船に乗っていただいて、ぜひとも一つお聞きしたいのは、その中で得られたことを、これからどういうふうに生かされていこうかな、どうやら家族も変わっていく雰囲気を持たれたようですから、じゃあ、御自身はどうや

って変わっていこうかなと思われたのか、また1点聞きたいですし、それからやっぱり、水野さんの今回の福知山で世界チャンピオンがお菓子をつくっていただくというのは、本当に地域社会にとってこれほどすばらしい勇気づけはないと思うんですね。でも、考えてみれば、東京に全部いいものが集まってと言っても、食材や素材やさまざまなものが東京にすべていいわけではない。地域にこそ本当にいいものがあって、それが日本じゅうのそこらじゅうで輝くことによって、全体がよくなる時代だと思うんですね。私、やっぱり水野さん、世界選手権で優勝されたわけですから、多分、東京とか大阪とか、いろんなところからおれのところに来て働いてくれないかというふうに思われたと思うんですけど、言われて誘われたと思うんですけども、それを振り切って、やっぱり中丹に戻ってきた一番の理由は、ちょっとお聞きしたいなというふうに思いますので、この点、お二人にちょっと尋ねたいと思います。

○司会 承知いたしました。

では、まずレディーファーストということで女性から。新宮さん、お願いいたします。

○新宮留美 今回、その女性の船に参加したことでいろんな方と出会いがありまして、まさかきょう、こんな、この場に立てるとは思っておりませんでしたので、だれにでも自分の思いを伝えようと思ったら実現できるというような形を広げていきたいと思いますし、子育てに悩んでおられる方も不登校で悩んでおられる方もたくさんいらっしゃいますので、もっとコミュニケーションを深めていって、だれにでも話ができるような、そんな地域づくりをお手伝いさせていただけたらなと思っています。

○司会 ありがとうございます。

そして、水野さん、お願いいたします。

○水野直己 実際、東京や関西のほうからお声をかけていただいて、誘いもあったんですけども、僕がもう地元に戻ってお菓子をつくろうと思ったのは、僕、今31歳です。この後、現役でいれるのも……歳までなら、もうちょっと……と思います。その間に僕が手がけるお菓子の数というのは必ず限られています、無限ではないですね。そのお菓子をだれに食べていただきたいかと考えたときに、やはり僕は生まれ育った町の地元の方に食べていただきたいという気持ち、それで帰ってきました。

○司会 すごく力強いんですね。もう中丹地域の皆様方にとっては、本当に力強い、ああ、そうか、そしてもちろん大切にしていきたい人だなと思います。ありがとうございます。

さて、たくさんのステージにおられる方の思いを今お伺いしました。

これからは第2部ということに入らせていただきたいと思います、その前にお一方、ちょっと

交通事情でおくれて到着なさった方がおられますので、御紹介をさせていただきます。京都府議会議員の家元丈夫様でございます。もうその場でお立ちいただいて、皆様方にお顔を御披露お願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

ということで、ここからは京都府中丹地域の未来、京都府に望むことにつきまして、会場の皆様方と意見交換をさせていただきます。発言を御希望の方をお願いいたします。手を挙げていただきまして指名をさせていただいた方に係の者がマイクをお渡ししてから、最初にお名前を言っていただき、御発言ください。

なお、初めにもお願いいたしましたとおり、できるだけ多くの皆様方のお声をお伺いするために、発言は2分以内でお願いいたします。

それでは、皆様方の御意見を伺いたいと思います。では、どうぞ手を挙げてみてください。遠くのほうに、あちらのほうに、何か遠慮深い方が多いようなんですけれどもね。じゃあ、あちらの方からお願いしましょうか。マイクを持っている係の者が参ります。まず、お名前をお願いいたします。

○参加者 舞鶴のドイと申します。

お話ししたいことは、皆さん方から御発言がありましたように、舞鶴港をもっと発展させなければ、これは知事さんのお考えと合致すると私は考えておりますが、もっと舞鶴でも、やはり韓国語、中国語、盛んに勉強みんながしております。この北の玄関口としてもっと発展するものになるように、特に東海岸のほうの韓国の港と交流、人的な交流、物的な交流、両者が相まって発展することを、京都府が発展することを切に希望しております。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

さまざまな国の方との交流ということで、これはやはり各市、あるいは京都府もともに行っていることだと思いますけれども、知事、いかがですかね。舞鶴港を中心というお話も市長の方からもございましたけれども。

○山田啓二知事 ……面があると思うんですね。今のやっぱり日本で本当に栄えているのは太平洋側なんですね。先ほど舞鶴市長さんが、京都市は港のない政令市だと言ったんですけれども、ほかの政令市は本当にみんな港を持っているんです。例えば、古くから栄えている横浜にしろ、大阪にしろ、神戸にしろ、北九州、福岡にしろ。そして、最近政令市になった宮城の仙台とか広島とか、静岡とか浜松とか、みんな港を持ってるんですね。港を持ってないで政令市になったのは、多分、東京の北側にあるさいたま市というのが政令市になったんです

けれども、そのぐらいじゃないですかね。その中で、最近やっぱり伸びてきているのは新潟市とかね。これも政令市になってます。

そういうところを考えたとき、なぜそこら辺が伸びてきているのかというと、大きな目で見ただけに、今、中国とか韓国がすごく経済成長が高いわけですね。中国はこの 100 年に一度の不況の中で、前の四半期 7%近い経済成長を達成しているわけです。その前の四半期だって 6%台の経済成長を達成していて、恐らく上海万博をにらんだ次の四半期は 8%台まで伸びてくるかもしれません。つまり、世界の経済を引っ張っていったのは、今、そうした中国とか、そういう地域になりつつあるわけです。そして、日本全体の戦略を見たときに、今まで栄えていたのは太平洋岸、アメリカを中心とした世界だったわけですが、これから日本を本当にアジアの一角として栄えさせていくためには、日本海を中心とした新しい産業構造をつくっていかねばならない。こうしたときに、近畿における日本海側の唯一の重要港湾というのは、実は舞鶴なんですね。そして、この舞鶴が重要だというのは、昔から御存じのように帝国海軍、海上保安庁から、すべてこの舞鶴に基地を置いてやってきたという、大変地理的にも港の条件としてもいい。これを地域の活性化のために生かすことができないければ、やっぱり京都の北部、ひいては京都全体の活性化のために、私は絵を書けないんじゃないかなというふうに思っておりまして、そのためにこの舞鶴港のプロジェクトというのが進められてきたということだと思っています。

そして、それは単に舞鶴だけではなくて、国際貿易だけではなくて、例えば小樽との間を結んでいる国内の貿易もありますし、観光というクルーズ船の問題もありますし、さまざまな応用範囲があるというふうに思ってます。そうした国際社会における大きな窓口として、舞鶴港の役割というのは近畿、そして京都にとって欠かせないものでありますので、それをうまくどうやって使えるか。舞鶴港、いよいよ来年、舞鶴国際埠頭がオープンをいたします。これを生かせるか生かせないかということ、私はやっぱり次の 10 年の京都ビジョンの一つの北部の戦略として、やっぱり掲げていかねばならないなというふうに思います。多分、海の舞鶴、そして道路・道の綾部、そして鉄道の福知山という、これ、それぞれ本当に大きなプロジェクトを組んでまいりました。つまり舞鶴港ということで、舞鶴に、港湾にたくさん投資をしてきた。そして、京都縦貫自動車道ということで、特に綾部とか中丹の中心のところに投資をしてきた。そして、鉄道ということで、鉄道高架ということで、福知山に本当に多大な投資をしてきました。こうしたものを次の 10 年で生かせなければ、やっぱり京都の未来はないし、中丹の未来もないという思いで頑張っていきたいと思っています。

○司会 ありがとうございます。

さて、先ほど随分と皆さん、どうしようと遠慮がちな手の挙げ方だったんですけども、せっかくですので、もうたくさんの方から御意見いただきたいので、では、あちらの方、男性。はい、眼鏡の方ですね。どうぞ。

○参加者 済みません、失礼します。

私は福知山市のカガマと申します。

まず、No.の資料にありますように、「明日の京都」ビジョン懇話会とありますけれども、その点について質問したいと思います。

これは知事さんの諮問委員会の性質があるものでしょうか。懇話会というのはちょっとやわらかいなと思いましたもので、お尋ねします。

○司会 という御質問ですね。

○参加者 それについて、また答えもらったら、次続けますけども。

○司会 続けて。ああ、そうですか。

では、済みません。知事のほうからお願いいたします。

○山田啓二知事 今回、実は長期ビジョンというのは説明がなかったんですけども、大分作成のスタイルが変わりました。

何が一番、作成のスタイルが変わったかと申しますと、京都府議会の議決を今回の長期ビジョンは得ることになります。つまり、議会の皆さんに御説明をして了解を得るという形は、今まで京都の長期計画では一つもありませんでしたけれども、今度からは議会の議決を得る。つまり府民の皆様の合意のもとに、単に知事が示していくということではなくて、府民の皆様の議会の議決を得て、合意のもとに、同じビジョンを描いて頑張っていこうじゃないかということが、今回の一番大きな特徴です。ですから、私のもちろん今回の「明日の京都」ビジョン懇話会というのは一つの諮問機関なんですけれども、ここを原案をつくっていただきまして、そしてこういう交流会の意見を得て、まるで小さな種を転がしていくと大きな雪だるまになるようにビジョンをつくっていき、最終的に府議会の皆様にそれを御了解いただいて、みんなで進めていこうという、そういう仕組みになっている。その元の種をつくるのが、この懇話会であります。

○司会 御理解いただけましたでしょうか。

○参加者 わかりました。

その懇話会と申しますのは、若干ちょっと弱いなという私どもの思いなんですけれども、知

事さんの思いは随分わかりましたけれども、例えば明日の京都のプロジェクトチームと申しましょか、もうちょっと強いようなネーミングの会であってほしいなと思いました。ただ、この文章だけで読みますと、若干弱いような気がした。その感じだけです。

以上です。ありがとうございました。

○司会　ありがとうございました。

じゃあ、今後ともぜひ御協力いただきますようお願いいたします。

本当にこういったことはできないだろうとか、ああいったことはどうなんだろうというふうな思いを多くの皆様方からお伺いをして、そして各懇話会でありますとか検討委員会でありますとか、そういったところで本当にいろいろとお話を、ああでもない、こうでもないと言いながら、きっと進めておられると思います。

○山田啓二知事　実際は懇話会を中心に、さっき言いました種をつくってもらいまして、今度は専門委員会というのを作りまして、専門委員会5分野あるんですけども、ここにまた各分野の専門家の方、例えば医療とか福祉の専門家とか、産業活性化の専門家とか、そうした方が入って専門委員会をつくって、それが府庁の各部と協力をし合って、また案をつくって、そして議会の御意見を聞きながらどんどん広げていくということでもありますので、ちょっと名前は弱いかもしれませんが、非常に広がりのある充実した組織として検討をしていきたいと思ってますし、きょうも本当に、ぜひともどんどん皆さんから、これを入れろ、あれを入れろ、こういう夢があるんだということを言っていただければ、それをまた反映させていきたいなというふうに思います。

○司会　ということでございます。

ほかの皆様方、何か御意見ございませんか。

あちらの男性が、中央のあたりにお座りの方が早かったですね。係の者が今マイクを持って行かせていただきますので、少しお待ちください。もう少し先の、その方。そちらの隣、今いていただいている方の眼鏡をかけられた男性ですね。

○参加者　福知山市三和町の刃師といいます。

たまたま綾部の領主であった九鬼さんのことを調べることがありまして、調べておりました。九鬼嘉隆という水軍の将の三代目がこの綾部へ来て、隆季という方ですが、それからずっと明治に変わるまで10代続いておるんです。その8代目の刃師という領主が、天明の飢饉のときに、領民が死ぬようなことがあれば自分が死してでも対応したいという、そういう覚悟があったということが、この綾部の山崎という京都市会の……会長さんの資料で調べてわか

りました。知事さん並びに各市長さんお見えですので、本当にそういう気持ちでやってほしいというふうに思います。

私は今、百姓やってますので、きょうもこの河川の川刈りをやっておったんですけども、少子高齢化の中では、やっぱり年寄りもそら頑張っております。しかし、そこに住む人たちが減っていけば、そういった環境を守っていくということが非常に困難な状況が起きてきますので、本当に少子高齢化を地域から立て直していくというようなつもりでやっていただきたいと。やっぱり福知山市長さんも、地域がなくなれば市域もなくなる、町もなくなるというふうにおっしゃっておりますので、本当にそれぞれの農村、その地域が住まれる地域であるように施策をしていただきたいと。綾部の市長さんも水源の里ということで全国を回っておいでですけども、本当にそういう隅々の者が、そこに住んでいて元気の出る地域がつかれるように、私たちもそれは頑張りますけれども、特にお願いしたいと。

鳥獣は本当にもう困っております。一つさくをすると、相手もまた知恵が出てきて学習します。ほんなら、また別の方法で入ってくると。そういうふうに二重、三重の囲いをしなければ最終的には守れないというようなことについては、そういう状況ですので、特にお願いをしていきたいというふうに思います。また、提案もさせていただきたいんですけども、きょうはここまでです。

○司会　ありがとうございます。

たくさんの思いをお持ちのようなんですけれども、もちろん担い手対策というふうなことは各市もされていると思いますし、京都府も実行してると思います。そういったことで住居を変えられたという方もおられます。

また、実は打ち合わせのときに、鳥獣対策がねとおっしゃってたのが上原綾部市副市長なんですけれども、もう本当に大変だということで、ちょっとわかってはいるけれどもなかなかできないというあたりを少しお伝えいただいてよろしいですか。

○上原綾部市副市長　御指名いただきました。3市とも共通の課題だと思います。

サルから始まりまして、最近はシカだというふうなことで、特に綾部市も厳しい中ではありますが、猟友会の皆さんにお願いする中で、何とか個体数を減らす、そのための委託料のアップでありますとか、助成金のアップとかやっておりますが、やはりなかなか難しいです。ただ、地域の方々は本当にもうあした収穫しよう思うたら、その日にとられてしまうという話、よう聞かせてもらいまして、これでもうやる気がなくなるんやという話も聞いております。中丹の広域圏なり北部の関係でも、この話は出していただいているというふうに聞い

ておりますし、1市町村、市町村が単独でやるよりも、これはやっぱり動物に住民票はあり  
ませんので、広域的な取り組みが必要だなというふうなことで話し合いを続けておりますし、  
特に中丹広域振興局さんを中心に3市にも呼びかけていただきまして、広域的な体制の問題  
でありますとか、シカの食肉加工をどうするかとか、シカの処理ですね。こういったことも  
含めて、今現在検討して、取り組みを、これは積極的に、しかも早く進めていかねばならん  
なというふうなことで頑張っていきたいというふうに思っております。

以上です。

○司会 ありがとうございます。

もう各市長さんにお伺いしたいところなんですけれども、たくさんの御意見をいただきたい  
ので申しわけございません。

では、続きまして、会場の皆様方がいかがでしょう。

では、こちらの方お願いしましょうか。

○参加者 綾部から参りました水野さんと申します。

3番の資料をちょっとお手元ごらんいただきたいと思うんですけども、中丹地域戦略会議の  
メンバーにさせもらってます。ここでちょっと自分の発言が書かれていますので御紹介したい  
んですけども、綾部には静岡から10年前に移住された野草料理研究家がおられて、その方  
のもとに全国からファンの方がたくさん来られます。魅力のある人や物が1,000ほどピンポ  
イントとなって、それが集まって、発進力ある地域にと発言させてもらいました。最初  
は100にしようかなと思いました。でも、100は少ない、それで1,000はどうかと思って、  
思い切って1,000と言ったんですけども、きょう水野さんと初めてお出会いさせていただい  
て、1,000という数字は可能であると私思いました。若杉さんという野草料理研究家  
が1,000で、水野さんが999、998からだんだん数がふえていって、この地域から、中丹  
から全国発信できる人が、世界に発信できる人が本当にふえれば、この地域はまた新たな段  
階に行けるんじゃないかなと思ってます。

水野さんは紫ずきんとチョコレートの技術をかけ合わされました。京都が発展したのは、や  
っぱり地域からの素材の力、それと加工力があつたのではないかと思います。そこに、それ  
だけでなく、恐らく哲学というものがあつたと私思ってるんですけども、その哲学と素  
材と技術がかけ合わされば、この京都からできることはいっぱいあると思います。

私は、舞鶴市長が満願寺に見えてしまう、ちょっと失礼な話ですけども、満願寺のチョコが  
できないかとかですね。賀茂ナスのチョコはどうか分かりませんが、3市の特徴を生か

したチョコレートがパックになって発売されて、ブランド力で新たな発信がこの地域はできるし、水野さんをどんどん活用するというなら失礼ですけども、何か素材的に応援したりとか、購入という形で応援したりとかすることで発信力が高まればと思ってます。ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

いろいろと、いろんな方向性でバックアップをしていきたいということもあったんですけども、満願寺も有名ですけども、肉じゃがも舞鶴有名なんですけれども、舞鶴市長いかがですか。

○齋藤 彰舞鶴市長 本当に皆さんが誇りを持ってつくっていただいておりますね。宇治茶の中へ入っていきますが、お茶も一生懸命つくっていただく。本当にそういう面では、食の豊かな地域なんですね、ここは。これは本当に、最後は残るものは食を持ってる場所が残ると言われるんですけど、そういう具がこの地域にあると思うんです。

舞鶴も、これは宣伝させていただくんですけども、地産地消で、子供に舞鶴のお米を食べてもらってるんですよ。この間から舞鶴のトビウオとかハタハタを食べてもらってる。とにかくもうインプットして、これから舞鶴のワカメを食べさせて、舞鶴のおみそ汁にも要るかもしれないと思っただけですけど、どんどんインプットして、ここのおいしい味をやっぱり子供たちに覚えさせてですね、やっぱりやっていく。

きょう、ちょっと水野さんもあったんですけど、水野さんの味は実は福知山でつくられたんですよ。僕、これすごいと思うんですよ。考える発想というのは、もうその知識もすごいけど、実はこの中丹というか、福知山がつくった舌なんかなと。そういう面では、やっぱり私たちがつくってきた素材のよさを、やっぱり水野さんをつくったという、逆に誇りを僕はそういうふうに感じたんですけどね。

そういう面では、ぜひ私たちは、例えばいろんな形の中で物をつくってますけども、この前も知事に、福知山さんと私のところがちょっと違うというのは、ぼうぼうという食べ物があるんですけど、山になってるんですよ。この前、知事、初めて食べはって、こんなうまいものねえなと言って、山に幾らでもなってますよと言ったら、いや、これはうまいぞと言って、まだまだ発掘して、私たちが売り出したり戦略。そしたら、きょう、水野さんにぼうぼうも考えてくださいと知事さんさっき言ってはった、そういうことでしたね。考えて、そういう面で私たちの食の豊かさというのは、本当に私たちの人の豊かさにつながってると思います。そういう面では人づくりの中に、やっぱりそういう研究者もあり、またこれから発信してい

くものもたくさんあるんじゃないかと思ってます。よろしくお願いします。

○司会　ということで、よろしくお願いいたします。

本当に福知山市長にもお話を伺いたいところなんですけれども、ちょっと長くなってしまいますので申しわけございません。

ほかの皆様方、いかがですか。あちらの男性、はい。

○参加者　失礼をいたします。私、舞鶴防犯推進協議会の外野という者であります。

きょうは山田知事さん初め、当地の齋藤市長さん、近隣の市長さん、あるいはまた先生方の御在席によって、この場で私が質問させていただくことに対してちょっと緊張しておりますが、私どもの活動内容をちょっと聞いていただくことによって、もう先ほどから高齢者という言葉が出ております。防犯推進委員ももう高齢です。ということで、これからの一つのビジョンじゃないけど、計画の中で、私どもが歩んできた一つの流れを聞いていただいて、これからの次期、後世に持っていきたいという形を考えております。

私どもの組織は平成6年にスタートし、前身は舞鶴にはなかったんですが、防犯連絡所ということで動いておったんですが、平成6年から舞鶴西防犯推進協議会ということで、東西…に活動しておったわけでございます。

なお、平成12年までは、私も12年からは支部長をやり、あと6年間会長をやらせていただいておりますけれども、12年までは平和な舞鶴でございましたが、ところが平成13年の6月に大阪附属池田小学校の児童殺傷事件が発生しましてから、近隣都市はもうさることながら、舞鶴もこれはほんとくわけにいかんということで、その当時はなかなかの啓発活動に対する七つ道具がなかったわけですよ。そうすると、これをやっていくためには、やっぱり近隣都市の役員さんの連携を持ちながら、自費で、やっぱり看板なりいろんなものをつくって行って、あるいは、車に今現在張っているマグネットシート、あれも自費でスタートしていったのが今現在活用されておるということなんで、それから平成17年には青色回転灯が使われるようになりましてということで、その青色回転灯についても、今現在、舞鶴では48台活動しております。

ただ、我々の組織には収入源がございません。ということによりまして、防犯協会さん、あるいは警察の支援を受けながら、なおかつ、今、265名の委員さんと平安レディースの女の方も25名含まれておるわけですが、その方も……活動をやっていただいているということで、いろんな資金源の関係で、これから後世に申し送っていくためには、行政からの支援を結びつけていかないと、我々も次期に送る土俵がつかれないんじゃないかなというふうに考

えております。

どうか、そういった面に、きょうは時間がございませんので、あんまりしゃべれませんが、一つ後先を御理解いただきまして、行政のほうで何らかのこれからの防犯推進委員の安心・安全のまちづくりに、いろいろと我々がもっと活発に活動できるひとつ御支援を賜りたいなというふうをお願いをしときたいと思います。ちょっと言葉不足で申しわけございません。以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

資金と言われると、もう各市長も京都府も、ううん、どことも厳しいなというのが実際のところだと思うんですけども、さまざまなそういった、これを資金にしていろいろな活動を行っていただきたいというふうなこともたくさんに取り組んでおられると思います。

じゃあ、どうしましょう。代表して知事をお願いしましょうか。

○山田啓二知事 資金の話からすると、私は全然逆だと思ってるんですよ。

私、知事になりまして、特に治安が悪化してましたから、警察官もふやしていかなきゃいけない、教育のほう頑張んなきゃいけないから教員もふやしていかなければならない、もちろん道路もつくらなきゃいけない、そして河川の改修もしていかなきゃいけない。ずっとそれやっていったときに、ただ感じたのは、それでもじゃあ治安がよくなっていくだろうか、教育がすぐに、先生ふやせばよくなっていくだろうかという、そうではないという感じがしましてね。特に治安の面、例えば警察官、1人大体、人件費のことを言って恐縮なんですけれども、大体京都府の警察官の平均給与からすると七、八百万円、退職金とか共済を入れて1,000万円ぐらいかかってきます。でも、地域の人たちが地域で子供たちを見守り、そして地域でみんなで支え合っていけば、警察官1人よりも何十人分の役割を果たせるということなんです。とすると、どれだけそうやったほうが私たちの税金が有効に使えるんだろうか。もしかしたら、私たちやはり本当は府民の皆さんこうしていただけるんだろうということに、行政として甘えていたんじゃないだろうか。もう1回府民の皆さんを支えていくような京都府に変わらなきゃいけないんじゃないかということで、市町村長さんとも協力をして、地域力再生、その前に安心・安全見守り隊の活動を支援ということで打ち出しました。今も安心・安全見守り隊、京都府の全小学校区でできていますし、地域力再生でも多くの防犯活動を展開してくれてます。これによって、実はもうこの二、三年、京都府においては急激に犯罪が低下しております。年数千件の割合で今、低下しています。ちょっとことし景気悪くなったんで、その低下のぐあいがどうなるか不安なところはあるんですけども、これを積

み重ねることによって、もちろん警察と地域の人たちが協働することによって、初めて安心・安全な京都ができ上がるんだなというふうに思っておりますので、そうした活動を私たちは資金面云々ではなくて、これからも一生懸命応援をしていけるように努力をしていきたいと思います。

○司会　ありがとうございます。

また、京都府では携帯電話でいろいろなお知らせ、メールで発信をしていることもございますので、そういったものも御活用いただきますと、また幅広く、皆様方にも安心が伝わっていくのではないかと思います。

さて、まだまだ意見を。

済みません、じゃあ、まずこちらの女性からお願いしましょう。

○参加者　……の発言が少なかったので申しわけありません。舞鶴の川と申します。

いろいろとお話を聞いておりまして、先ほど上司が死ぬほど頑張らなあかんのやという話があったんですけども、男性ばかりが死ぬほど頑張っても、世の中はやっぱりよくなる限度があるんじゃないかと。そんなしんどい目をして過労死するよりも、もっと人口の半分いる女性の力を引き出すようなことを考えた方がみんなのためにもよいし、町はもっと住みやすくなるんじゃないかというふうに思います。

女性が住みやすいような環境でしたら、子供も育てようかな、産もうかなというふうに思いますし、そういうふうに育てられます。そして、地域がだんだん豊かになると思うんです。高齢者の人も、今、知事さんがこれからは女性と高齢者ですよというお話がありましたけれども、高齢者の人も陰で何か隠居して、肩身狭く、何か邪魔にならんようにお手伝いしながら生きてるんじゃなくて、高齢者がもっとどんどんと地域の主役として生きられるような、生きやすいような環境であれば、高齢者も輝きますし、そして女性もそういう環境があれば輝くと思うんです。

水野さんが、ふるさとの人においしいものを食べさせようと思った、そのふるさとを思ったもとは、お母さんからおいしいものをいただかれた、そういう小さいころからの生活があったんじゃないかと思います。やっぱり女性がもっともっと地域に出て、そして自分たちの能力を発揮して、食生活なんかも生活も、それから安全に対してもですか、主体的にかかわれるような社会ができるような、そういうふうな当たり前、女性が出て出しゃばるんじゃなくて、女性が出て一緒になって、男性も女性も一緒になって働けるような、そんな活動ができるような社会づくりを、ぜひ京都府は推進していただきたいと思うんです。

私も中丹戦略会議に参加させていただいておりますけれども、これからは福知山だけ、綾部だけ、それから舞鶴だけよくなるか言うんじゃないかって、みんなが連携をして、お互い地域力全体、広域的に力をアップしていく。それは男性の一国一城の昔からの感覚じゃなくって、女性はやっぱりすぐお友達になって話をして、井戸端会議なんかしながら仲間をふやしていくという、すごい特徴があるわけですけども、そういう女性のネットワーク力、ロコミ力、それを発揮して、私たちも頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

○司会 もうこういう子供さんのお話を、新宮さんからお話を伺って、食育って、うん、そうだな、大事だなというのも実感してたんですけども、それをずっと長くごらんになっていらっしゃる先生の経験者でございます松山福知山市長にも、いろんなことがあるよというのを絶対実感されてると思いますので、少しお話を伺ってもよろしいでしょうか。

○松山福知山市長 せっかく御指名いただいたんでありますけれども、私も市長になってからびっくりしたのは、どうも役所の中自体が男社会になっていたと。例えば女性参画問題という大きな委員会がありながら、もう一つ女性の参加が少なかったということで、ことしは私は初めて予算と人事の担当させてもらったんですが、女性の登用をかなりさせていただきました。これはもう、今、僕さんおっしゃったように、男子と女子はこの地球上で約半々だということとは、半々いてもいいわけですね。ところが、不思議にどんどん上げていこうとしたんですけども、途中からやめていかれてるわけですね、部長級あたりに引き上げようかなと思った人がね。あるいは、またことしも1人、それでやめるつもりでおりますと言われて、せっかく上げようとしたけど、1人やめられた事実がありまして。これがいまだに家庭の問題で、新宮さんおっしゃったけども、男子はどんと座り、女性は家事やという、それがまだまだ強いかなと思ってまして、何としても半々ですので、できるだけそういったところで採用をしたり、あるいは各種委員会の中でも、国なり府のほうからの何%という指導があるにもかかわらず、男社会という点がありますから、どんどん、今、私のほうは女性を登用させてもらってるという状態です。本当に不思議なところだなと思いながら、昨今、その委員会にしても、あるいは役所の中にしても、どうもおかしいなと思いながらやってきたのが今まででございます。

○司会 ありがとうございます。

じゃあ、今からもっともっと女性の活躍の場が広がっていくんじゃないかと思いますが、あちらにも女性の方がいらっしゃいますので、先ほど私もと大きく言っていただきましたので、あちらの黄色Tシャツをお召しになった方ですね。お願いいたします。

○参加者 失礼します。

発言の時間が残ってうれしいです。途中から、やっぱりきょうみたいなところでお話聞いていただこうと思いました。

私は峠の話をしたいんです、峠の道。山越えするときに、昔は歩いて 27 号線から 175 号線、こっち側は府道ですけども、由良川の右岸ですか、そこまで、私が知ってるだけでも八つぐらい峠があります。その中で七つか八つあって、そのうち五つは確実に綾部市。六つか、いや違う、もっとかな。とにかくすごくたくさんあるのがほとんど綾部市から、丹波から、昔の丹後へ越えた峠です。それで、そのうち車が通れるのは多分一つか二つです。あとはみんな、地域では、もうここはだれも通らないということになってる峠ですが、今の 80 代、90 代、70 代。私、60 代ですけども、60 代でも、まだ子供のときに越えたという記憶が地域ではいっぱいあります。それは通れないから、必要もないからということでそのまま放置されてるんですけど、最近、私たち綾部の志賀郷ほうで峠を越えてみようという、そういう試みを、この四、五年ずっと断続的にやっています。もう最近、舞鶴の久田見と加佐公民館長も参加されましたが、久田見峠の上で勉強会というのをしました。この峠が昔どんな峠だったかということとか、地域の研究家ですね、郷土史研究家の方、久田見の人と志賀郷、綾部の人と、先生方に 2 人来てもらって、お一人は 73 歳、お一人は 83 歳でした。女の方も 80 代、70 代も参加されて、ちょっと手を加えたらまだまだ歩ける峠です。

ただ、これを何もしないと、あと 10 年、15 年たったら全部もうつぶれてしまって、危ないから行けないという、そういう道に全部なる可能性があります。今だったら少し手を加えたら、例えば峠ウォーキングとか、峠をずっと尾根伝いに歩いて、由良川まで 27 号線から歩けるとか、そういうことは夢じゃないと私は思っています。これは今やらないと、通ったことのある人がいなくなったら、だれも思い出さないし、峠のことを言う人がいなくなる。今だったら、とってもおもしろいエピソードとか、楽しかった思い出とか、まだ行こうという人がいっぱいいます。峠というのは、何か知らん人を魅せつける力があるみたいで、企画したら口コミで、この前の峠の勉強会が 19 名あったの……、10 日もたたなかったんですけども、準備期間が集まりましたので、何とかその峠の魅力というものを考えていただきたいと思います。

それだけです。

○司会 ありがとうございます。

もうなかなか通れなくなった道があるということなんですけれども、京都府も森林フォレス

トということで、里山の保存とかいったこともいろいろと活動が続けているわけなんですけれども、やはりこの中で大江山のふもとの新大江病院の新宮さんなんかも、きっと千年の森構想なんかでもいろいろとごらんになっていらっしゃると思うんですけれども、どこともやはり使わなくなった道があると思うんですね。それを果たして使っていいかどうかということもあると思いますけれども、もう少し大きく考えて、この山をどうしていこう、この自然をどうしていこうというふうなところも、非常に今から大事になってくるんじゃないかと思うんですけれども、地元でいろいろな御意見、きっとお伺いじゃないかと思いますが、何かございませんでしょうか。

○新宮七郎 ちょっと思わぬところで振られましたので困っておりますが、宮津街道、皆さん御存じだと思います。普甲峠のところに石畳がところどころに残っている。そういうのを、やはり地域資源として、いかに地域が磨き出すかということが大事になってくると思います。先ほど勉強会をされたとおっしゃいましたが、やはりそういった輪を広げることで、また知恵を貸してくれる人がふえる、そういう中で輪が広がれば、行政側も動いてくれる部分が出てくるというふうに思います。

やはり、そこに住む者、関心がある者がいかに真剣に取り組むかということが一番大事だというふうに思います。私も大江山の鬼伝説のまちづくりにほうけておりまして、いろんな方をお願いをしました。やっぱり真剣に専門家の胸へ飛び込むと、かっちりと受けとめてくれます。そういうことがいろんな方の力を得て、全国的にまで広がるということもあります。ですから、そういったことに一歩、皆さん方踏み出すかどうかと、やってもあかんと言うたらしまいです。一歩やってみようかということで先へ行ったら、流れは変わるんじゃないかというふうに思います。

○司会 突然で申しわけございませんでした。

さて、さまざまな御意見を伺っておりますけれども、そろそろ時間も少なくなってきております。あと二、三名の方ということになっておりますが、あちらで必死に、ありがとうございます。どちらからにしましょう。ジャンケンで、いえいえ。男性の方からお願いしてよろしいですか。

○参加者 済みません、舞鶴市朝来西町、府営住宅、沓と申します。

山田知事さんは家主さんです。家主さんに物申したいということで、築後 35 年、大変古い住宅で、近年は 200 のうちで、現在世帯数の数が 139。その 139 のうちが問題なんです。弱者と言われる、きょうは齋藤市長もお見えになってますけども、いわゆる生活保護、これ

だけで 13、それから高齢世帯が 25、寝たきりが 9、母子家庭が 23、障害者・知的・精神・身体含めて 21 名、グループホームが一つと。合わせれば、139 のうち 75 世帯がいわゆる福祉を必要とするものである。こういう住宅が現在私たちの弱者の住宅です。弱者はどんどんふえてまいります。なぜふえるかと、当然、公共住宅なので弱者はふえます。家賃が安いと。府は今まで 15 年間、地域……かった責任で、自治会は 50 件がもう自治会をやめております。ということは 90 件で動いています。府は 15 年間で街灯 2 本だけつくってくれました。空き家も年 1 回、草刈りだけはやってくれました。何と言っても一番行政で言われる問題が、地域の住宅のおっさん何言うとなやと。答えはこうです、知事さん。あなた方の住宅は常識ある大人の方ばかりが住んでおられる住宅です。どうぞそちらのほうで解決をと。物は建てる、空き地があれば車庫は建てる、物置は、コンテナは、ふろは建てる、それを府は何も言わないから、10 年わしは、府はもう認めとんねやと、こんなことわしは知るかいと、もうそれ言われたら行政はもう一切タッチしやへん。5 年間も 6 年間も来んと。さあ、この住宅は何度も行きましたけども、市も府も動いてくれませんでした。

ところが、3 年前、行政も 3 年待てば人が変わります。中丹広域振興局、動いてくれました。ほんで、知事さんが、非常に政策が私とこの住宅があるんです。今、二つ申し上げます。地域力再生プロジェクト 3 億円。知事さんは議会で、テレビで出ました。新聞にも大きく 3 億円出ました。これはもう舞鶴……持ってこなあかと。これは南部ばかりへ流れていく、市内ばかり 2 億 9,500 万円行くやろうと。早う行かないかん、新聞持って飛び込みました。中丹広域振興局はこたえてくれました。今、その地域力再生のプロジェクトが 3 年目にかかります。2 年終わりました。一生懸命、我々もやりました。

そうして、もう一つの問題は、住宅は変わりつつあります。これは家主さんである知事さんに 30 分でも見ていただきたい。前の現状自体はわかりませんが、川筋 300 メートル曲がって、瓶や缶じゃないんです。ベッド、テレビ、寝台、もうありとあらゆるものが 300 メートルほっというては引っ越していくと。こんなことは府がやることやっちゃと。ところが、フェンス 1 枚でこっちは住宅課、このフェンスからこっちは、これは土木ですわと、川ののり行ったら国交省ですわというふうなことで大変でした。

ほんで、もう一つだけ言います。……公募型公共事業、これに応募しました。府はすぐこたえて調査に来てくれました。これも期待しております。

この府と市は、齋藤市長と府は非常に仲がええんやと思います。今までならほったらかしで、府のことは、市のことはと言われてたのが、広域振興局の会議室で市の長寿社会と、それか

ら府の振興課、これが会議をする、地域を入れて。こういうええあれが出ております。そういうことなんで、ありがとうございます。我々はボランティアとは思ってません。府の仕事、市の仕事を我々がやっていくと、こういうことで頑張っております。どうも、待ちに待たんで、えろう長うて済みません。

○司会 ありがとうございます。お礼も兼ねてということになったんでしょうか。

ただ、いろいろな本当に生活をしていく中での問題というのが出てきて、まさにいろいろな問題を多くの皆様方から伺って、そして委員会の戦略会議というふうなことで、皆さんいろいろなことを知恵を出し合っていていただいているというところだと思うんですけども。井口さん、いかがですかね。いろいろな問題が会議の中でも出てくると思うんですけども、やはり生活に密着したところというのは、なかなかこうやって聞く機会も少ないんじゃないかと思いますが。

○井口和起 いきなりこっちへ振られると私も困るんですが、出ました意見すべて自分なりにノートさせていただいたつもりなんです、戦略会議の中で議論されていることと、余り考えもしなかったというようなことも確かにあります。例えば峠の話などはそういうことがありますが、ちょっと宣伝させていただきます。言葉も時間ないのでやめますが、日本の文化財保護法は数年前にいろいろ変わったんですが、その中で文化的景観というのが文化財に指定されるというようなことまで出てきてます。その中で何を言ってるのか、文化的景観というのはというと、それは生業、つまりなりわいです。それから暮らし、それが伝統的な姿で今もなお生きている部分を、現在の景観計画の中で保護するということを、市町村あるいは都道府県が決めて、そしてそれをちゃんと歴史的な評価を加えれば重要な文化的景観として認めて、今後も維持していくよう努力しましょうというようなことを言ってる部分があるんですね。今の峠の問題なんていうのは、私はそういうことも含めて考えていくべき課題だと思うふうに思っておりますので、ぜひとも、また地域戦略会議の中でも考えていきたいと思うんですが、私のほうから一つだけ聞きたいことがあるんです。戦略会議で、前回、中丹地域の人々のよさみたいな話が出たんです。それで、中丹の人ってのは、みんな優しくて思いやりがあるよということをおっしゃったんです、川さんがおっしゃったん違うかなと思うんですが。ところが一方で、いや、おとなしくて遠慮がちで、積極性がないんだよという話も出たんですが、こういう一般的にすぐ特徴づけるのはよろしくないんですが、中丹人かたぎみたいなところで、こういうのはええとこや、私たちが誇りに思っているところだというのがありましたら、きょうはもう時間がないかもしれませんので、済みませんが、中丹広域振興

局のほうにメールでも何でも結構です、手紙でも。ぜひお寄せください。私たち、これから議論する材料にさせていただきます。よろしくお願いします。

○司会 ありがとうございます。

アンケートもございますので、そちらも御活用いただければと思います。

さて、お隣の女性の方ですね。お待たせいたしました。

○参加者 舞鶴のワワと申します。私も戦略会議の一員として頑張らせていただいております。

先ほど齋藤市長様が舞鶴もお茶があるというようなことをおっしゃっていただきまして、三十数名で舞鶴もお茶で頑張っております。その平均年齢がもう 70 歳ぐらいな方たちがほとんどでありまして、その中でここ二、三年、四、五年の間ですか、新規就農の若い子が3名ほどと、また途中から入ってくれた 40 歳ぐらいの方が2名ほどと、それから定年退職をした方がというような形で、だんだんと若くなってきております。

その中で新規就農をした子供たちの話なんですけれども、何にもないところから農業をするというのはすごいハードルが高いわけなんです。それで、いろんな方の御協力で何とか私もそれに大変協力をして、何とか新規就農にこぎつけられたわけなんですけれども、また、お茶だけでなくお野菜等にも、舞鶴にも綾部にもたくさん入ってこられておりますし、福知山にも若い御夫婦でお茶づくりの方も入ってこられたりして、それぞれの分野で頑張っておられるんですけれども、そういう若い方たちがやはり農業を支えていかないと、これからの、特に安心・安全を担う農業の分野におきましては大変厳しい状況やと思うんです。それで、ある程度のハードルは仕方ないんですけれども、若い方たちが何とか農業でも食べれるような仕組みとか資金面とかを少し補助というんですか、そういう入りやすい状況にしていただけたら、皆さんの食卓にもっと安心して、食べたり飲んだりするものが供給できるんじゃないかと、そのように考えておりますので、またいろいろな御支援のほどよろしくお願いをいたします。失礼いたします。

○司会 京都府が力を上げている宇治茶ということで、各地で生産を開始し、もう中丹のほうは随分と長くて、いいお茶がとれているということなんですけれどもね。最近のお若い方の感覚がどうなんだろうかというのもあたりするんですけれども、もう1人マイクをお渡ししております佐藤さんですね。日々はもちろんお若い学生さんとお話をされておられるんですけれども、こういった戦略会議でありますとか委員会の中で、そういったことというのはなかなか出づらい部分もあるんじゃないかと思うんですけれども。

○佐藤 満 最近は若い人、元気に発言しますし、きょうのところでは沓さんと、こちらの水

野さんとの間のコラボレーションも成り立つような雰囲気もありますし、それから多くの女性の方の積極的な発言を伺うことができて、私がかかわっております条例の検討委員会、実は9人委員会いるんですけど、5名は女性です。その女性の方々がこれからつくっていくのかなという感じも少し感じているところで、それが確かに財政的に厳しくなったということも大きいと思うんですけど、知事が少し話題に出ておりました地域力再生とか府民力推進とか、そんな形で、自分たちのまちづくりを自分たちでやってくださいね、やってくれる人は助けますよというような姿勢をお持ちですので、我々条例をつくってる側も、そういうことをできるだけ皆さんにわかりやすく訴えながらつくっていくような協力をしたいと思ってるんですけど、将来に向けて明るい目は見えてきているなあというのが、最近実感してるんです。

○司会 ありがとうございます。

まだまだ皆様方からの御意見をいただきたいところなんですけれども、そろそろお時間のようでございます。大変、まだ言いたいとお気持ちを持っていらっしゃる方、申しわけございません。

では、結びに、山田京都府知事から、本日の府民交流会 in 中丹のまとめを一言お願いしたいと思います。

○山田啓二知事 きょうは本当にありがとうございました。

今、司会の方がおっしゃいましたように、まだ言い足りない方とか、これも言いたかったなという方もたくさんいらっしゃると思います。そうした方は京都府のホームページのほうにもメールで出していただいても結構ですし、私どもに手紙を出していただいても結構です。ぜひとも皆さんのたくさんの意見を本当にいただいて、その中で未来の京都をつくっていきたいと思います。

先ほどどなたかが命をかけて頑張れという話がありましたけれども、これはまさに私ども、命がけでやっぱり京都の未来をつくっていかねければ、これからの子供たちに、これからのやっぱり京都を担う人たちに申しわけないと思って頑張っていきたいと思います。

その中で二つだけお話をさせていただきたいと思います。

1点は、私はやっぱりこれからの高齢化社会を見たときに、本当に京都自身がしっかりとした福祉社会をこしらえていかなければならないという思いでいます。しかしながら、このときに立派な施設があったり、立派なものができても、その施設の中でだれとも話せずいたら、例えば豪邸に住んでいてどんなにおいしい料理を食べたって、その家族に会話がなかっ

たら、それで本当に幸せな福祉社会と言えるのでしょうか。やっぱりそうではないと思うんですね。一人一人の心の通った、一人一人が支え合っていかなければ、どんなにすばらしいビジョンを描いても、これは単に絵にかいたもちになるというふうに思います。そうした面で、私は地域力再生を初めとしまして、先ほどおっしゃいましたように、府民の皆さんがお互いに紡ぎ合い、お互いに支え合う地域社会をつくっていきたいと思ってます。それには皆さんの参加が必要です。皆さんの心が必要です。皆さんの思いが必要だと思っておりますので、当然、ぜひともこれからの未来に向けて一緒に京都をつくっていこうという、そういう思いでいただきたいというふうに、まずお願いをしておきたいと思います。

それから、この中丹という地域でありますけれども、私は北部というのは厳しいとか、北部というのはなかなか大変だというお話がたくさんあるんですけれども、中丹の3市見ると、人口はそれほど減っていないんですね、正直言います。余り減っていないんです。日本全体の人口が減ってる時代です。特に過疎とか高齢化が進んでる地域では、極端に減っている地域が多いんです。でも、大体 21 万ぐらいのことを維持してきている地域、それはやっぱりこうして水野さんを初めとしまして、多くの若い人たちがこの地域の魅力を持って帰ってきていただいている。この地域には海もあり、そして里山もあり、恵まれた自然がたくさんあります。そして、その中で、今の生活の中でも工業地域もあるわけです。だから、いろんなものがそろっている地域であります。未来へ向かって夢を持てる地域は、私は中丹だと思っています。

そうした面で、同じ夢を皆さんとともにぜひとも実現して、夢ではなく未来として頑張っていきたいと思います。この思いで、ぜひとも皆さんの本当に府政に対する関心と参加、もちろんきょうは市の、皆さんの首長もいますので、市政に対しても関心と参加をもっていただいて、その中でともに未来を紡いでいきましょう。どうかよろしくお願い申し上げます。

○司会 では、以上をもちまして、「未来をつむぐ「明日の京都」ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 中丹」を終了させていただきます。

山田知事を初め、ステージ上の皆様方、そして会場の皆様方、まことにありがとうございました。ここでステージの皆様方に御退席いただきます。

なお、本日お越しいただいている皆様方にはアンケート用紙をお配り申し上げます。発言が足りなかった、きょうは発言できなかったと思っておられる皆様も、このアンケート用紙に御意見を御記入いただきますようお願い申し上げます。お帰りの際に、出口付近のアンケート回収箱にお入れください。

なお、同じくお配りしていますチラシにも書いてございますが、本日の模様を8月6日木曜日の午後9時 50 分から、KBS京都テレビ番組「旬感☆きょうと府」で放送いたします。そして、9月6日日曜日のお昼 12 時5分からのKBS京都テレビ番組「月イチ☆きょうと府」におきましても、知事の現地現場訪問「げんばの絆」コーナーで少し紹介させていただきます。こちらもぜひご覧ください。

本日は御参加いただき、まことにありがとうございました。